学術情報リテラシー教育の理論と動向

平成18年度
学術情報リテラシー教育担当者研修
2006（平成18）年10月11日（水）/11月8日（水）

野末 俊比古
（青山学院大学／国立情報学研究所）

1. はじめに

- 研修の目的･構成
- 講義の目的
- 講義の構成

2. メディアの多様化・高度化と情報の利用（者）

メディアをめぐる変化
(インターネットの意味するもの)

- 情報通信技術の高度化 (デジタル化・ネットワーク化)
- 情報源 (ソース) と情報流通経路 (チャネル) の多様化

「情報」利用者の変化と図書館

- 情報探索・利用行動（方法）の多様化・高度化
- 図書館の位置づけの変化
- 図書館の（新たな）役割・対応

3. 情報リテラシー（教育）の研究・実践・政策の動向

情報リテラシー（概念）の変遷

- 70年代：ビジネス能力
- 80年代：日常生活全般
- 90年代：「教育」に焦点
- 00年代：デジタルデバイドの解消

情報リテラシーの今日的な理解

- 情報を主体的に使いこなす能力
- 中身は分野･文脈に依存
- 「図書館リテラシー」も（重要な）要素

最近の研究動向（例）

- レビュー研究（国内）の登場
- 大規模な実態調査の実施・公開
- 実践に基づく報告・考察
- 理論的・歴史的な分析・検討

※ 実践の動向→他講

※ 政策の動向→後述

4. 高校までの「情報教育」の現状
(教科「情報」を中心に)

情報教育と情報活用能力

- 現行学習指導要領における情報教育（情報活用能力の育成）の重視
- 情報活用能力の定義（焦点）
  - 情報活用の実践力
  - 情報の科学的な理解
  - 情報社会に参画する態度

「情報教育」の体系化のイメージ

	実践力	科学的理解	態度
小	総合的な学習での活用 / 各教科・科目での活用		
中		技術・家庭	社会
高		数学等 普通教科「情報」	公民

高校普通教科「情報」の概要

- 目標：情報化の進展に主体的に対応できる能力・態度の育成
- 構成：「情報A」「情報B」「情報C」から1科目以上が必修
- 特徴：「問題解決」が基礎、文理融合型、実習（技能）重視、…

5. 大学図書館における
学術情報リテラシー教育の展開

大学図書館における利用者教育

- 「図書館」「資料」→「情報」
- 「探索･収集」＋「整理･分析」「表現･発信」
- 教員（授業）との「連携」

「指導サービス」の意義

- 図書館の「内部」から「外部」の文脈へ
  (系統的な情報リテラシー教育)
- 「利用者」の視点を重視
- 図書館経営・政策上の「戦略」

➔これまでのサービスの体系化・再構築

指導サービスの「方法」

- 直接的方法／間接的方法（ツール）
- 授業との関連
  - 関連なし（図書館独自）
  - 学科関連指導
  - 学科統合指導
  - 独立学科目

「指導サービス」の指針など

- 米国：ACRLの指針・基準など
- 日本：JLAの指針など
- 「たたき台」や「拠りどころ」として

「指導サービス」をめぐる課題（例）

- 体系化・標準化・共有化
- さまざまな利用者（ニーズ）への対応
- 環境の整備・確保
- 学内での位置づけ（教員・授業）
- 職員の「指導」技能（養成・研修）

➔ プログラムのマネジメント

6. おわりに

- 大学コミュニティにおける位置づけ（ライブラリアイデンティティ）
- 図書館員の役割（専門性）

ありがとうございました

ご意見やご質問はいつでもどうぞ
(後日の場合はメールやファクスで)